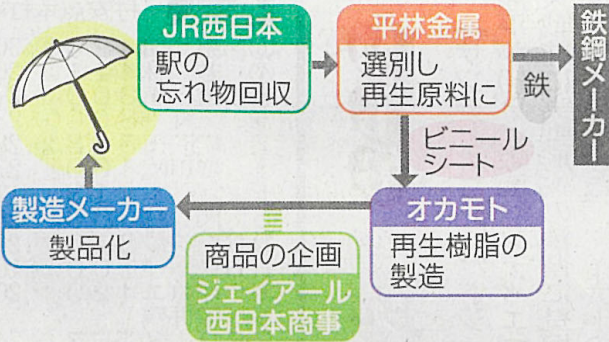


平林金属、JR西などと協業

忘れ物ビニール傘再生

リサイクル業の平林金属（岡山市北区下中野）はJR西日本（大阪市）などと協業し、駅や電車で回収した忘れ物のビニール傘を、新たな傘に再生する事業に乗り出した。平林金属は傘をビニールシートと鉄に選別する役割を担う。これまで取り扱いの少なかったビニールの再資源化や、力を入れる循環経済の取り組みのアピールにつなげたい考えた。（橋本直樹）



傘はJR西が近畿エリアで回収し、平林金属が玉島工場（倉敷市玉島乙島）でビニールと鉄の骨組みに分解。ビニール部分をゴム・プラスチック製品製造のオカモト（東京）に送ってペレットに加工し、ジェイアール西日本商事（兵庫県）の企画で傘のパーツやクリアファイルなどに再生する。リサイクルした傘はJR西グループのホテルが貸し出し用として活用する予定。

平林金属は分別した鉄の骨組みについても粉碎して異物を取り

除き、鉄鋼メーカーに販売して再資源化する。玉島工場では現在、想定される回収量の約2倍の処理能力があり、将来的に回収エリアが広がっても対応できるとい



手作業によりビニールシートと鉄などの骨組みが分別された傘

駅、電車で回収 鉄部品と選別、原料に

忘れ物の傘は近畿エリアで月約9千本あり、そのうちビニール傘だけでも月4千本ほどが産業廃棄物として処理されている。JR西とオカモトがリサイクルを検討する中で、手作業での分別に対応できる平林金属に協力を求めた。同社は約1年半かけて再生可能なビニールの汚れ具合などを検証し、4月から取り組みを始めた。

同社は金属の再資源化を強みとするが、ゴムやプラスチック製品を手がけるオカモトとの取引によって、取扱品目を広げることも視野に入れる。「傘のリサイクルを社会貢献につなげるだけでなく、事業として収益性をアップできるように処理工程の改善なども進めたい」としている。

平林金属は1956年創業、60年設立、資本金9980万円、グループの売上高は259億4400万円（2024年12月期）、従業員数は525人。